別紙第２号様式

2023-99

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構　大阪労災病院
研究課題名*	消化器疾患診療における医師の多様性に関する検討
所属科*	消化器内科
研究責任者*	法水　淳
研究実施期間	開始　西暦　2013年　4月　日　～ 終了　西暦　2026年　3月　31日（予定）
対象疾患（予定症例数）	当院で2013年4月～2023年3月の間に、消化器内科の入院/検査等を施行した症例　（　106　症例）
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自　西暦　2013　年　4月　日　～ 至　西暦　2023　年　3月　日
研究概要*	【背景】性差医学は、遺伝子やホルモンなどの生物学的要因や社会的・文化的・環境的要因による性差を医学的な領域に応用する学問である。消化器疾患においても、性差は病態や疾患頻度、治療効果などに影響を与えることがわかってきた。例えば、消化器機能障害では女性の方が有病率が高く、ストレスや月経周期との関連がある。代謝性消化器疾患では女性ホルモンの影響や肥満度との相関がある。消化器癌では男女間で発生率や部位分布、予後や治療効果に差がある。これらの性差のメカニズムや臨床的意義を解明することが今後の課題である。 一方で、消化器診療を担当する医師自身も多様な性差を持っている。医師の働き方はライフステージやライフイベントにより専攻医、常勤医、非常勤医等様々な形態がある。特に女性医師は結婚や出産・育児といったライフイベントが働き方に影響することが多く 、内視鏡検査等の技術的・物理的な負担や放射線被曝等の健康リスク に配慮する必要がある。また、男女間で消化器診療への関心や志向度 に違いがあることも報告されており 、その背景には教育・研修制度や職場環境等の要因が考えられる。消化器診療を担当する医師の多様性は臨床経過に与える影響も無視できない。例えば、医師の性別や年齢、勤務形態、専門性等が患者の受診意欲や信頼感、コミュニケーション、治療選択、アドヒアランス等に影響する可能性がある 。このように、消化器診療を担当する医師の性差は医療の質や効率に関わる重要な要素であると考えられる。

別紙第２号様式

	以上のように、性差医学と消化器診療には密接な関係があり、その理解と応用は消化器疾患の予防・診断・治療・予後の改善に寄与すると期待される。 【目的】消化器診療を担当する医師の多様性と臨床経過に与える影響について検討する。 【方法】当院で 2013 年 4 月～2023 年 3 月の間に、消化器内科の入院/検査等を施行した症例を対象に、既存の診療情報（血液検査、画像検査等）、担当医情報（性別、勤務形態等）臨床経過の閲覧・評価を行い、消化器診療を担当する医師の多様性と臨床経過に与える影響について検討する。
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署（施設・研究室）で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。
研究の問い合わせ先*	大阪労災病院　消化器内科 法水　淳